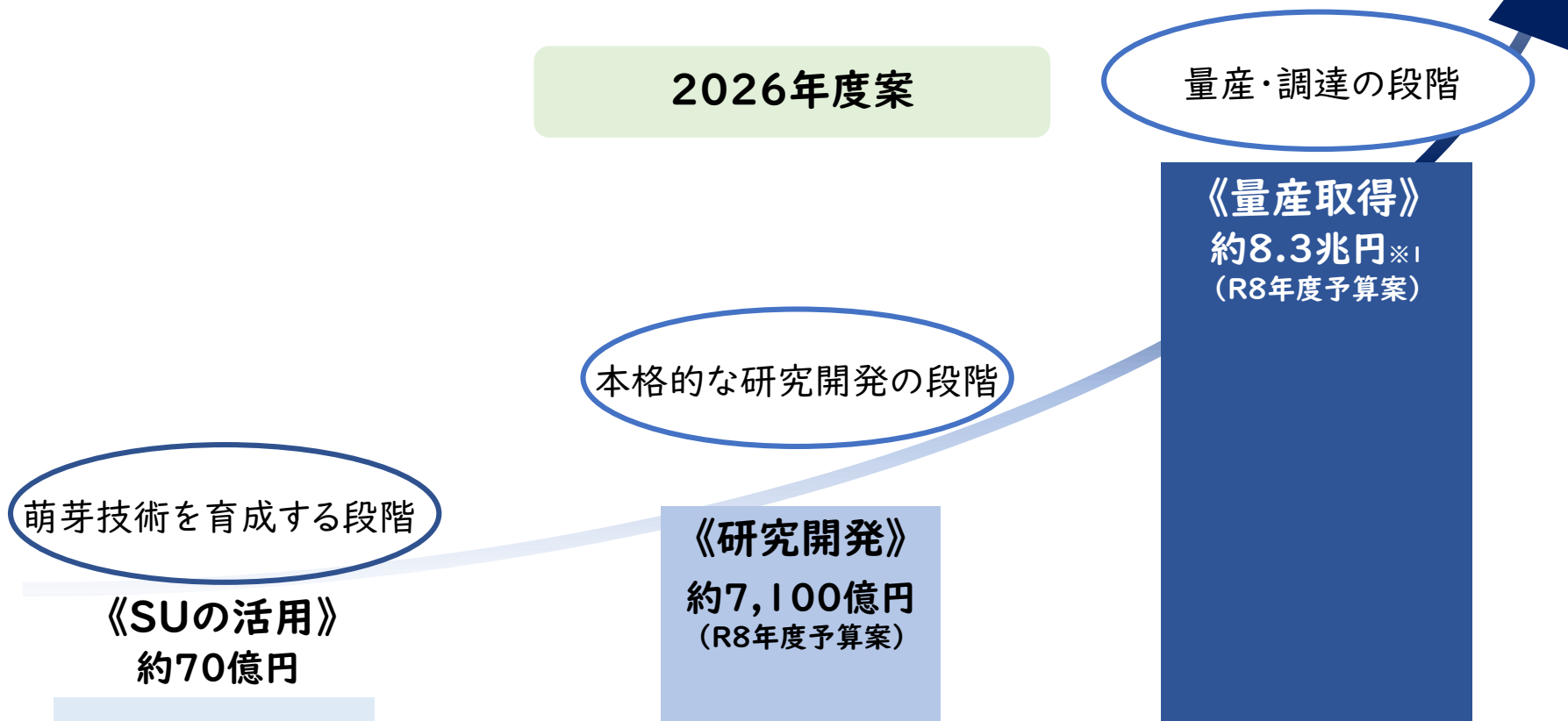


# ファストパス調達のための予算確保

- ファストパス調達は従来よりも遙かにスピーディーに研究開発・装備化を実現する調達様式。
  - 同調達を通じて、スタートアップ（SU）が有する優れた技術を、防衛装備品に迅速に活用するとともに、SUの成長を通じて「防衛と経済の好循環」の実現に貢献。
- ▶ SUからの調達を加速する各種取組みの推進のため、防衛装備庁で令和8年度予算案において約70億円（契約ベース）を確保する方向。
- ▶ 優れたSUには、研究開発事業への参画や本格的な量産取得といった更なる事業機会が存在。  
（想定するSU企業の事業の一例：AI、無人機、量子、バイオ・メディカル、宇宙、教育訓練 等）



※1 約8.3兆円は令和8年度予算案の整備計画対象経費の総額  
 ※2 金額はいずれも契約ベース

# ファストパス調達のための手法 (1/3)

## ① 防衛省版SBIR制度

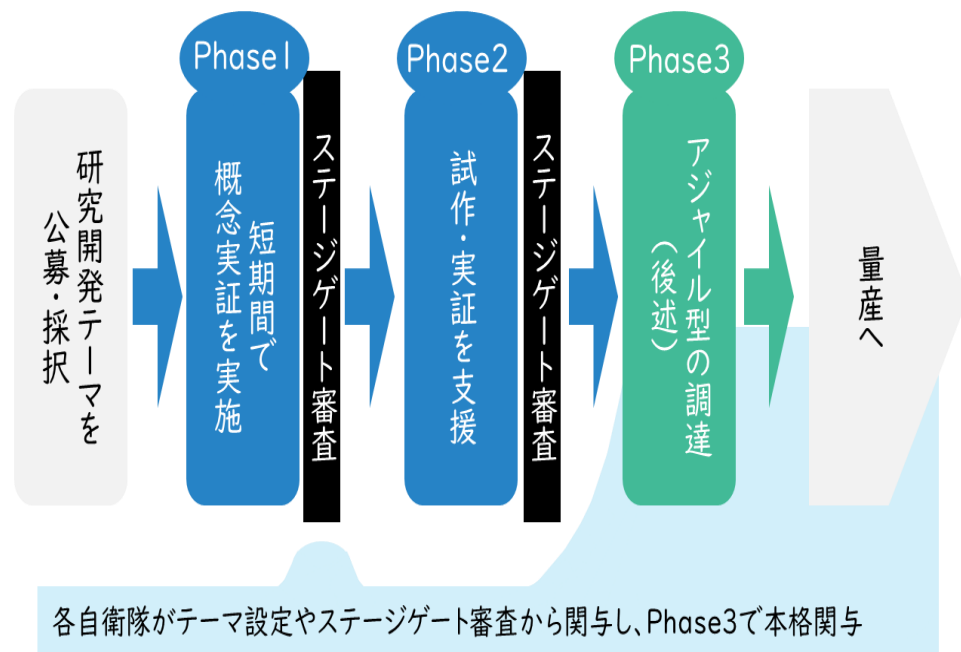
※SBIR (Small/Startup Business Innovation Research)

- ▶ 現状: SUの研究開発を支援する内閣府のスキームであり、各省庁が予算化し活用。防衛省は未活用。
- ▶ 今後: 令和8年度から防衛省でも開始。**複数企業と同時契約**し、装備品の**早期装備化を実現**。  
⇒ 令和8年度当初から研究開発のアイデアの公募を開始予定。ただし、3月中も、企業による自発的なアイデアの提案については、新規参入相談窓口 (P.5) にて受付。

### ● 米陸軍におけるSBIR制度活用事例



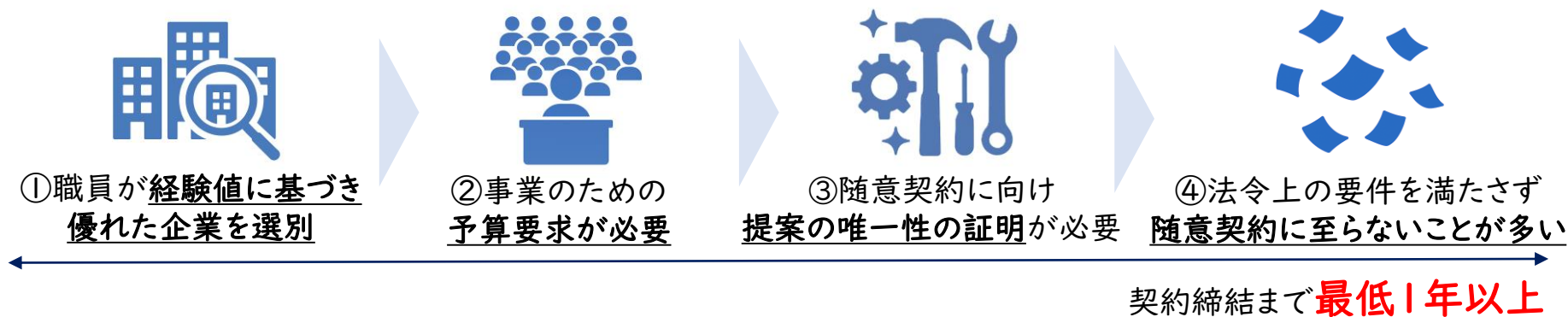
### ● 防衛省版SBIR制度のイメージ



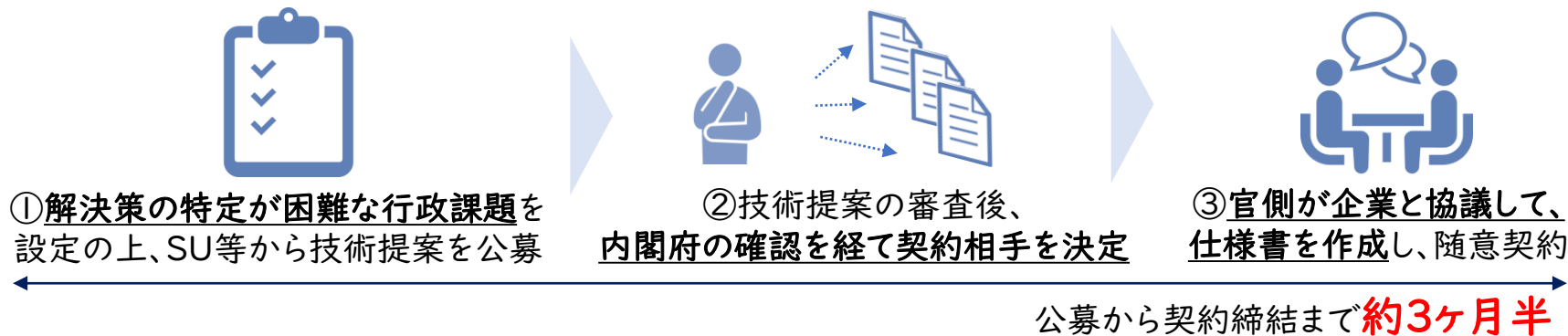
## ② スタートアップ(SU)技術提案評価方式(スタートアップ随契)

- ▶ 現状:優れた技術を有するSUを対象とするスキームであるが、活用例は極わずか。
- ▶ 今後:随意契約のプロセスを体系化することで、より多くのSUと**早期の随意契約が可能**に。  
⇒高度かつ独自の新技术を有するSUとの間で仕様書を調整した上で、随意契約を締結。迅速かつ柔軟な調達手法であり、更なる活用を推進。

### ● 従来の随意契約のイメージ例



### ● スタートアップ随契のイメージ例



# ファストパス調達のための手法 (3/3)

## ③ アジャイル型の調達

- ▶ 現状:アジャイル型の調達は制度化されていない状況。
- ▶ 今後:**部隊と一体となった研究開発**を制度化し、**遙かに迅速な装備化**を実現。  
⇒SUの迅速性を活かし、極めて短期間に一連のフィードバックサイクルを繰り返すことで、製品・技術を自衛隊の運用ニーズに適合させ、迅速に量産段階への移行を図る調達方式。

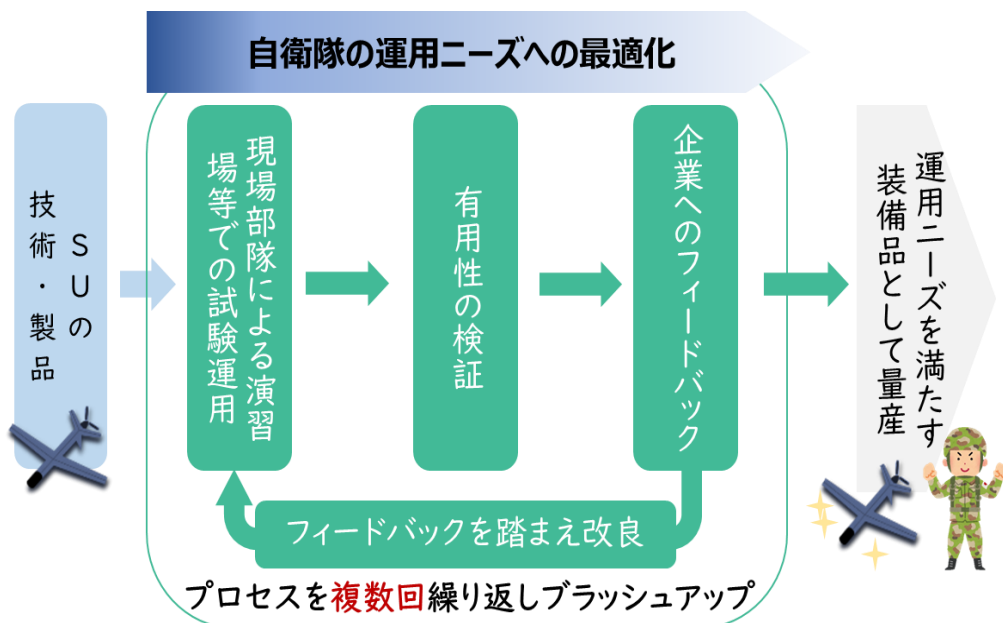
### ● 従来の調達

- 既に自衛隊の運用ニーズに合致した製品・サービスでないと調達の対象になりにくい。
- 企業が自らの投資・努力で自衛隊の運用ニーズに適合させる必要。

### ● アジャイル型の調達

- SUの既存の製品等を**部隊が企業と一体となってフィードバックサイクルを回し**、自衛隊のニーズに早期に適合させる。
- SUは**予算化された事業の中で**、自社の製品・サービスを改良可能。

### ● アジャイル型の調達のイメージ例



例: SUが製造する無人航空機をセンサー、ペイロード、自律性、通信等の改良を実施した上で、部隊での実証・フィードバックを通じて、迅速に運用ニーズに適合させ、早期の装備化に繋げる。

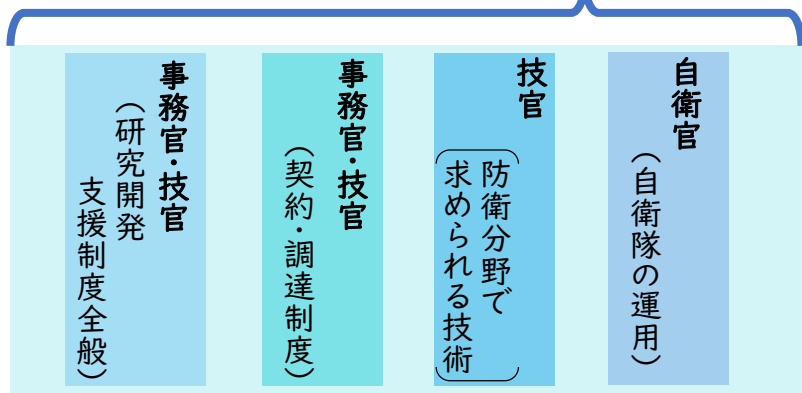
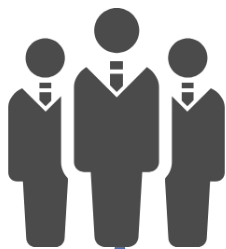
# 新たな伴走支援体制の整備

- ▶ SUの活用を更に推進するべく、防衛装備庁を中心に「スタートアップ活用伴走支援グループ」を新設。装備政策課の「新規参入相談窓口」を内外の一元的な相談窓口として指定。
- ▶ SUと幕僚監部等の各機関の双方に対し、自衛隊の運用ニーズとのマッチング、契約締結時の障害の解決等の「伴走支援」を実施。

## スタートアップ活用伴走支援グループ

### ・防衛装備庁

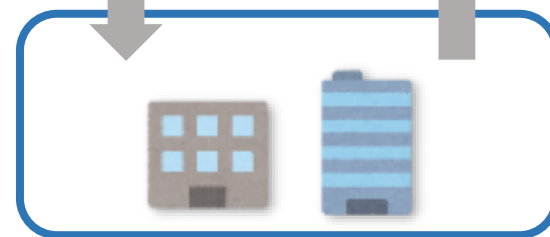
- ・内部部局
- ・統合幕僚監部
- ・陸上幕僚監部
- ・海上幕僚監部
- ・航空幕僚監部 等



## 幕僚監部等の各機関



伴走支援



スタートアップ